

平成30年7月豪雨への対応について

平成30年7月豪雨により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

7月5日（木）から8日（日）にかけて梅雨前線が西日本付近に停滞し、そこに大量の湿った空気が流れ込んだため、大雨が連日続きました。梅雨前線は9日（月）に北上して活動を弱めるまで日本上空に停滞し西日本から東日本にかけて広い範囲で記録的な大雨となりました。

7月6日（金）の夕方に九州地区の長崎、福岡、佐賀の3県に大雨特別警報が発表され、続いて中国地区の広島、岡山、鳥取の3県、夜には近畿地区の京都、兵庫の1府1県と1日で8府県に大雨特別警報が発表されました。翌日に岐阜、翌々日には高知、愛媛の3県にも発表され、最終的に気象庁が運用を開始して以来最多となる計11府県で大雨特別警報が発表されました。この豪雨により、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数が220人を超える甚大な災害となりました。

広島県、岡山県、愛媛県の3県庁との『災害時等における段ボール製品の調達に関する協定』の7月9日（月）からの要請に基づき、7月11日（水）以降、全段連防災アドバイザーの水谷氏と組合員の迅速な協力、加えて、経済産業省製造産業局素材産業課（岩谷課長補佐、山田係長）の所謂プッシュ型支援も得て段ボール簡易ベッドを3,867床（広島県704床・14か所・岡山県2,545床・27か所・愛媛県618床・3か所）、段ボール製間仕切り540セット（広島県40セット・1か所・愛媛県500セット・1か所）を供給致しました。3県庁以外の被災市町村自治体と西段工組合員との独自の防災協定に基づいて、930床の段ボールベッド等を適時提供しております。総計で段ボール簡易ベッド4,797床を供給いたしました。

被災地のみなさまの一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。